

No. 1204

人権を守る

昭和23年7月、人権擁護委員の制度は発足し、現在全国の市町村におよそ1万人の人権擁護委員が法務省、及び地方法務局の管轄下に活躍している。

人権相談に訪ずれる人の数は年々増加している。昭和50年度において人権侵犯事件として取り扱われた件数は1万3千件あまりである。人権擁護委員は相談者から話を聞いたあと現地に調査に行き、必要に応じて侵害者に勧告を申しわたす。現代社会がはらむ様々な人権と人権の対立。

基本的人権とは人間が人間であるというだけで、国の法律によって守られるまでもなく、当然持っていると考えられる権利である。各地区の人権擁護委員の会議には様々な問題が持ち込まれる。過激な競走社会にあっては人は他人の思いやりをはぐくむ余地ももたない。

また急速な都市化の現象は人間への思いやりを生み出し得ていない。法務省では今年も、また「人権の共存」をスローガンに決めた。

春 近 し

— 三 重 ・ 伊 勢 —

南国、紀伊半島はいま早い春が訪れようとしている。美しい志摩の海がやわらかい日ざしに映え、真珠をちりばめたような美しさを見せる。沖合いを運搬船が航跡を描き、はるか水平線に真白い雲が流れ、黒潮の香りが寄せる波に運ばれてくる。休日にはもう気の早い観光客が訪れていた。志摩の海辺ではどこにいても春から秋にかけて、白装束の海女の姿が見られる。

その海女がまだ冷めたい海で実演をみせていた。見物客の方が思わずえりを立てる。

陽光の加減で1日に7色にも移り変わり、箱庭のような美しさを見せる英虞湾。いたるところに筏が浮いており、真珠の養殖で有名だが、沖の網にかかった伊勢エビもかごに入れられ「蓄養」されている。古来から正月の縁起ものとして重用されている腰のまがった長寿の相に通じるからで「海のおきな」のことばにふさわしい。伊勢エビは夜光性なので夕暮とともに網を沈めておき、翌朝、引き上げるとひっかかっている。どういう訳か視力抜群で月夜の晩には網が見えてしまうので、エビ漁は新月の前後に行われるという。網にかかったまま陸上げされて、傷つけないように、ひとつひとつついでいねいにはずされる。新鮮な伊勢エビはそのまま焼いて食べるのが一番うまいというが、そそいで飲む酒の味もまた格別。紅く染った顔にはもう春がきていた。